

## 職員紹介

### 調達を通じて、研究開発に携わることができます。

研究開発実施における役務、物品の購入などの契約業務に携わっています。必要経費を見積り積算する原価計算を主に担当しています。原価計算においては、研究所内から要求のあった仕様書の精査、入札公告、費用積み上げ、会社との契約手続、支払準備までを行っています。本業務は入庁以来初めて関わる業務となります。必要となる時期に契約をするためには、計画性をもって作業を進める進捗管理、研究職の方や会社の方との調整などを適切に進めていくことが大切です。また、実際の研究開発の現場に立ち会う機会があったのですが、デスクワークだけでは得られない知見を得ることが出来ました。得た知見を調達業務の場でも還元することが出来るため、やりがいを感じています。

父は防衛省勤務であり、祖父が海上自衛官でした。その影響もあり憧れて入庁しました。今の職場も風通し良く、成長を実感できる職場だと思います。

## Profile

管理部会計課調達係員  
令和2年入庁／一般職・高卒/事務



## 技術で国を支えることができるのは魅力的です。

戦闘機パイロットと共に戦う無人機用AIの研究に携わっています。防衛省では無人機やAIの装備品への活用を重視しており、戦闘機パイロットと遜色ないレベルになるよう、無人機用AI技術を向上させることが所属するチームの目標です。

AIは世界中で開発競争が行われており、AI分野における技術的優位性を図るためには常に新しいものにチャレンジする意気込みが必要です。このような意気込みを有する上司・先輩のいる環境で良い経験をさせていただいていると実感しています。

研究は、緻密に1つのことをじっくりと考え続ける必要がありますが、航空装備研究所では要素技術的な研究の他にも様々な仕事に携わる必要があるため、処理能力を上げることも重要になります。上司・先輩の指導のおかげで、仕事も効率的にできるようになってきていると思います。

航空装備研究所で様々な仕事に携わることで、自己の適正や強みを自ら把握したり周囲の方から教えられたりすることもあり、自身の経験値を高めつつ技術で国防の一翼を担っているという責任感も持ちながら仕事ができているというのも魅力の一つだと感じます。

## Profile

航空機技術研究部航空機システム  
・無人機知能化研究室員  
令和5年入庁/総合職・院卒/数学





## チームとして機能していくことが 大事だと実感しています。

入庁以来、長らく航空用エンジンの研究開発に携わってきました。若い頃は、ジェットエンジンの性能確認試験に計測員として参加してエンジンのパワーを肌で感じると共に、エンジン部の若手技官で集まりガスタービン理論など仕事の基礎知識を付けるべく勉強にも励みました。中堅を過ぎると、事業全体をマネジメントする立場に変わると共に、本庁の管理部門で規則整備などの行政的な仕事に携わる機会にも恵まれました。このように業務範囲が広がってくると、自分でいかに知識を付けて勉強しても1人でできることは限られていますので、周りの人と協力しながら、チームとして機能させることが大切になってきます。チームで働くことの大切さに気付けたことは業務から得られた貴重な経験です。また、本庁では女性技官同士の横の繋がりもでき、今でも業務の困りごとがあると相談したり、一緒に飲みに行ったりとプライベートに至るまで活用しています。

昔から空が好きで、飛行機が好きでした。日本で航空機やエンジン全体を仕事にできることは限られています。また、国防の仕事は非常に重要です。航空装備研究所はその両方に関われる職場です。



## Profile

エンジン技術研究部エンジン先進要素研究室長  
平成12年入庁/I種/航空



## 現場の意見を取り入れ、 新しい技術に立ち向かいます。

極超音速誘導弾やHGV対処用誘導弾といった誘導弾システムの研究開発に携わっており、製造会社との技術調整や付随する事務作業等の一部を担当しています。いずれも非常に規模の大きい事業のため、他プロジェクトとの調整を担当する部署、予算要求の正面に立つ部署など、防衛省の中でも様々な部署との調整が多く、先輩職員の背中を見ながら日々勉強しています。

どの部署も国家の平和と安全という大きな目標の元で同じ方向を向いていますが、細かい部分ではそれぞれの立場で考えが相反することもあります。新たな装備品を創出するため、製造会社と綿密に調整し、研究開発を円滑に進められるように様々な障害を取り除いていくことが、我々研究所の役割であると考えています。

防衛装備庁の研究職は、陸・海・空自衛隊というユーザとの距離が近く、ユーザ側の意見を取り入れた企画・提案ができ、また提案したものが装備品としてモノになるということが仕事の魅力です。また、誘導弾の研究開発は他の装備品と比較して高い頻度で実施されており、最新の技術を取り入れた新しい装備品の研究開発、試験評価に複数携われることは、航空装備研究所の誘導武器グループの大きなアピールポイントです。

## Profile

誘導技術研究部誘導システム研究室員  
令和4年入庁／総合職・院卒／工学